

平成 30 年度 第 1 回福岡市子ども読書活動推進会議

日 時：平成 30 年 7 月 26 日（木）10：00～

会 場：赤煉瓦文化館 会議室 3

次 第

1 開 会

2 委員の紹介

3 委員長・副委員長選出

4 報告・協議

- (1) 子ども読書活動に関する実態調査について
- (2) 福岡市子ども読書活動推進計画(第 3 次)の進捗状況について

5 閉 会

配布資料

- ・出席者名簿
 - ・座席表
 - ・子ども読書活動に関する実態調査の概要について
 - ・クロス集計及び総括
 - ・子ども読書活動に関する実態調査（調査票）
 - ・平成 29 年度子ども読書活動実態調査の結果分析にかかる考察
 - ・子ども読書活動推進計画（第 3 次）における具体的施策及び進捗状況一覧
 - ・福岡市子ども読書活動推進会議設置要綱
- } 子ども読書活動
実態調査関係

子ども読書活動に関する実態調査の概要について

福岡市教育委員会 生涯学習課

1 調査の目的

子どもの読書活動の実態や読書活動への意識、学校における読書活動推進の取り組みなどについて把握し、「福岡市子ども読書活動推進計画」に基づく今後の子どもの読書活動推進のための基礎資料とすることを目的として実施した。

2 調査の性格

(1) 調査対象者

- ・福岡市立小・中・高等学校を対象とする。
- ・学校の抽出方法
小・中学校・・・学校規模を考慮し、市内各区1校を抽出（7校）
高等学校・・・福岡市立高等学校4校を抽出
- ・対象人数
 - ① 児童生徒
小学3年生（223人） 小学5年生（219人）
中学2年生（252人） 高校2年生（310人） 合計 1,004人
 - ② 上記児童生徒の保護者
小学3年生（223人） 小学5年生（219人）
中学2年生（252人） 高校2年生（310人） 合計 1,004人
 - ③ 司書教諭（配置校全司書教諭）
小学校（143人） 中学校（66人） 高等学校（4人） 合計 213人

(2) 調査の方法

小・中・高校生、保護者、司書教諭とも学校での配布・回収

(3) 調査時期

平成29年9月～平成29年10月

(4) 調査の回収結果

		配布数	回収数	回収率(%)
児童生徒	小学3年生	223	209	93.7
	小学5年生	219	210	95.9
	中学2年生	252	240	95.2
	高校2年生	310	296	95.5
保護者	小学3年生	223	200	89.7
	小学5年生	219	189	86.3
	中学2年生	252	220	87.3
	高校2年生	310	240	77.4
司書教諭	小学校	143	143	100.0
	中学校	66	66	100.0
	高等学校	4	4	100.0

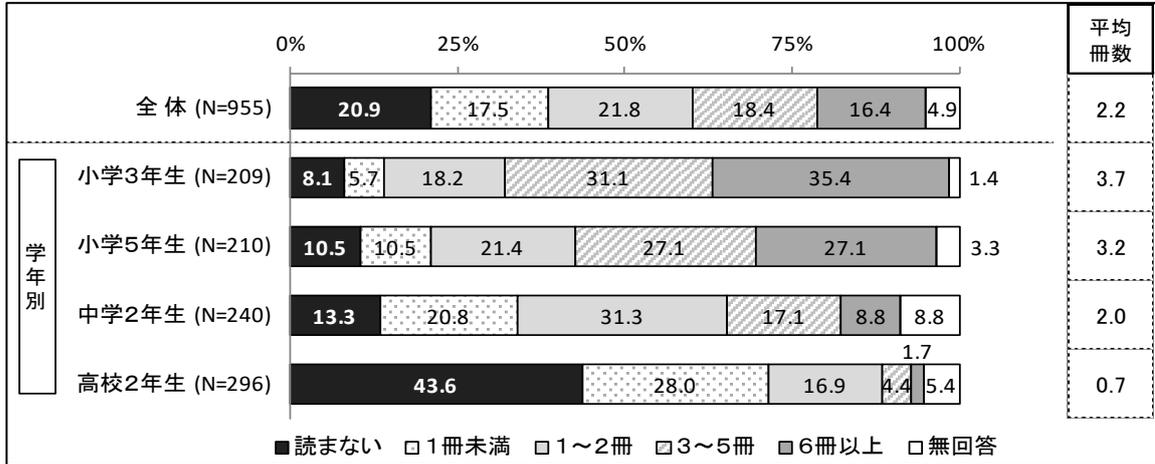
3 調査の結果(主なもの)

(1) 子どもの状況

① 1カ月に読む本の冊数

学年が上がるほど読む本の冊数が少くなる傾向にある。

グラフ 1カ月に読む冊数(学年別)



【参考】全国調査 (平成29年度) 第63回学校読書調査の不読者(0冊回答)

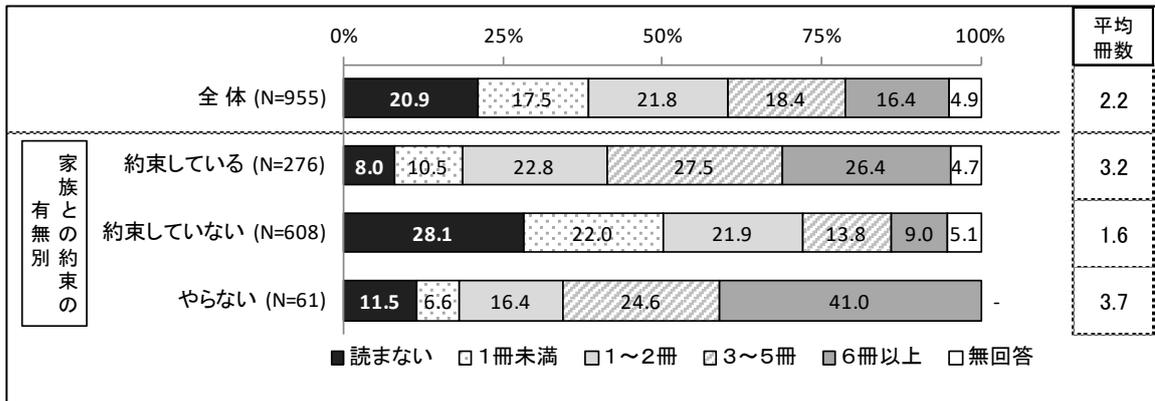
小学校(4~6年) 5.6%、中学校 15.0%、高校 50.4%

② インターネットやゲームの時間について家族との約束の有無と1カ月に読む本の冊数

インターネットやゲームの使用時間について約束をしている方が本を読む傾向にある。

ネットやゲーム等使用しない(やらない)が一番本を読んでいる。

グラフ 1カ月に読む本の冊数(インターネットやゲームの時間について家族との約束の有無別)



③ 読み聞かせの経験と1カ月に読む本の冊数

両親や家族，ボランティアの人から読み聞かせをしてもらった方が本を読む傾向にある。

- ・ 1カ月に6冊以上本を読む子は、両親や家族から読み聞かせをしてもらったと答えた割合が65.6%、1冊も読まない子はしてもらったと答えた割合が52.5%（13.1ポイント差）
- ・ 1カ月に6冊以上本を読む子は、ボランティアの人から読み聞かせをもらった割合が75.8%、1冊も読まない子はしてもらった割合が69.5%（6.3ポイント差）

表 読み聞かせの経験(性別、1カ月に読む本の冊数別)

		(ア) 両親や家族から								
		標本数	よくしてもらった	らとときどきしても	てあまりないし	いしてもらっていな	無回答	『してもらった』	『してもらってない』	
全体		955.0 100	279 29.2	286 29.9	180 18.8	201 21.0	9 0.9	565 59.1	381 39.8	
性別	男子	478	21.5	29.9	19.2	28.9	0.4	51.4	48.1	
	女子	474	37.1	30.0	18.6	13.3	1.1	67.1	31.9	
	無回答	3	-	33.3	-	-	66.7	33.3	-	
本の冊数別	1冊未満	167	25.7	29.3	24.0	20.4	0.6	55.0	44.4	
	1～2冊	208	26.0	34.6	17.8	20.7	1.0	60.6	38.5	
	3～5冊	176	31.8	31.8	20.5	15.3	0.6	63.6	35.8	
	6冊以上	157	43.9	21.7	13.4	19.1	1.9	65.6	32.5	
	読まない	200	23.0	29.5	18.5	28.0	1.0	52.5	46.5	
	無回答	47	23.4	34.0	19.1	23.4	-	57.4	42.5	
		(イ) ボランティアの人から								
		標本数	よくしてもらった	らとときどきしても	てあまりないし	いしてもらっていな	無回答	『してもらった』	『してもらってない』	
全体		955.0 100	187 19.6	491 51.4	101 10.6	156 16.3	20 2.1	678 71.0	257 26.9	
性別	男子	478	18.2	47.5	10.7	21.1	2.5	65.7	31.8	
	女子	474	21.1	55.5	10.5	11.6	1.3	76.6	22.1	
	無回答	3	-	33.3	-	-	66.7	33.3	-	
本の冊数別	1冊未満	167	19.2	48.5	16.2	15.0	1.2	67.7	31.2	
	1～2冊	208	25.0	46.2	12.0	14.9	1.9	71.2	26.9	
	3～5冊	176	17.6	54.5	4.5	19.3	4.0	72.1	23.8	
	6冊以上	157	19.1	56.7	7.6	15.3	1.3	75.8	22.9	
	読まない	200	17.0	52.5	12.0	16.0	2.5	69.5	28.0	
	無回答	47	17.0	51.1	10.6	21.3	-	68.1	31.9	

(2) 保護者の状況

① 読む本の冊数と平日の余暇時間の過ごし方

- ・子どもの学年が上がるほど保護者も1カ月に読む本の冊数が少なくなる傾向にある。
(子どもと同じ傾向)
- ・余暇時間がとれる保護者のうち、読書の平均時間は19分と少なく、テレビやDVD視聴は1時間17分、スマホ等使用は1時間2分と1時間を超えている。

② 保護者が1カ月に読む本の冊数と、子どもが1カ月に読む本の冊数の関係 保護者の読む本の冊数が多い区分ほど、子どもの読む本の平均冊数も多い。

表 1カ月に読む本の冊数【子ども】(1カ月に読む本の冊数別【保護者】) (小数点1位の数値は%)

	標本数	【子ども】1カ月に読む本の冊数						平均冊数(冊)	
		読まない	1冊未満	1〜2冊	3〜5冊	6冊以上	無回答		
全体	821	156	146	184	158	138	39	2.3	
	100.0	19.0	17.8	22.4	19.2	16.8	4.8		
1カ月に読む本の冊数別【保護者】	読まない	239	28.0	18.0	21.3	16.7	11.7	4.2	1.9
	1冊未満	298	18.8	19.1	23.2	16.4	16.1	6.4	2.2
	1〜2冊	213	13.1	16.0	25.8	21.1	19.7	4.2	2.6
	3〜5冊	41	7.3	14.6	17.1	36.6	22.0	2.4	3.2
	6冊以上	22	4.5	18.2	4.5	22.7	50.0	-	4.1
	無回答	8	12.5	25.0	12.5	50.0	-	-	2.3

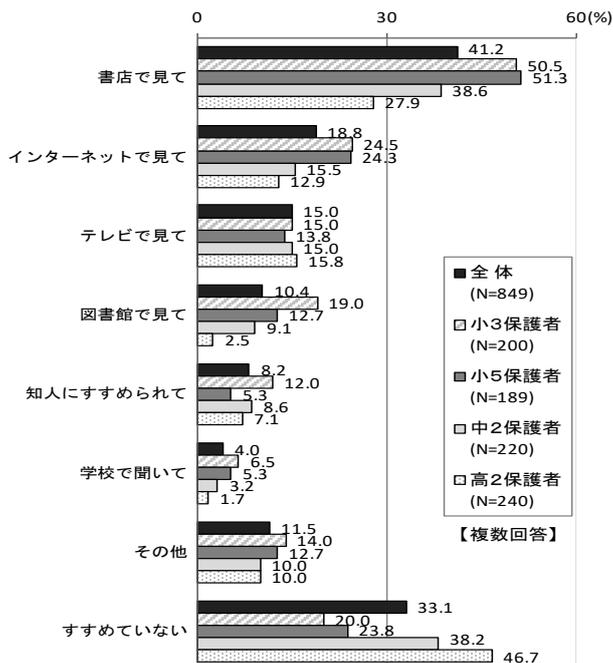
③ 保護者が子どもに本を紹介している程度と子どもの読む本の冊数 紹介(おすすめ)をした方が、読む本の平均冊数が多い。

保護者が本の紹介を「よくしている」子の1カ月あたりの平均冊数は3.6冊、「全くしていない」子の平均冊数は1.7冊。

④ 子どもへすすめる本の選び方

小学生の保護者の50%が書店で見て本を選んでいる。

グラフ 子どもへすすめる本の選び方



(3) 司書教諭

(1) 学校の取り組みについて

- ①「**学校図書館全体計画**」を全体の62.0%が策定している。小学校で58.7%、中学校で66.7%、高等学校では100%となっている。
- ②**授業への図書館活用の程度**は「月に1回」が41.3%で最も多く、次いで「1学期に1回」(23.9%)と「週に1回」(20.2%)が2割台で続いている。「していない」は1.4%と少なく、ほとんどの学校で程度の差はあれ図書館が活用されている。小学校では「月に1回」が44.1%、次いで「週に1回」が25.9%となっているが、中学校では「月に1回」と「1学期に1回」が同率の36.4%と、小学校の方が活用頻度は高い。
- ③**全校一斉の読書活動の実施状況**では「始業前」が62.4%で最も多く、「時期を決めて実施している」が17.4%で続いている。小学校、中学校ともに「始業前」が最も多く、小学校では「時期を決めて実施している」(23.8%)が続いているが、中学校では「実施していない」(21.2%)が続いている。
- ④**全校一斉の読書活動以外の取り組み**では「図書の読み聞かせの実施」と「必読書・推薦コーナーの設置」の取り組みが6割を超えて多い(70.9%、65.3%)。小学校では「図書の読み聞かせの実施」が9割を超えているのに対し(95.1%)、中学校では「必読書・推薦コーナーの設置」の取り組みが約7割で最も多くなっている(69.7%)。
- ⑤**読書活動ボランティアの活用**は65.7%の学校が活用しているが、小学校で活用している学校が9割を超えているのに対し(91.6%)、中学校では13.6%と大幅に減少している。読書活動ボランティアの活用は小学校が中心となっている。
具体的な活動内容としては、小学校では「読み聞かせ、ブックトーク等読書活動の支援」が94.7%、中学校では77.8%となっている。次いで小学校、中学校ともに「図書館の書架見出し、飾り付け、図書の修繕等施設の整備に係る支援」が4割を超えている(42.0%、44.4%)。小学校ではこの2つの活動に集中している。

(2) 学校図書館の状況について

- ①**図書館の開館状況**では「昼休み」が93.9%で最も多い。次いで「中休み」(53.5%)と「授業中」(39.9%)が続いている。小・中・高校のいずれも「昼休み」が9割を超え、次いで、小学校では「中休み」「授業中」「始業前」が多くなっている。中学校では「昼休み」に集中している。
- ②**授業時間以外の図書館の1日平均開館時間**では「約1時間程度」が53.5%で最も多く、次いで「30分以下」が26.3%で、両者を合わせて約8割が「1時間程度まで」となっている。「1時間程度まで」は小学校で74.1%、中学校で95.5%となっている。

なお、学校の図書館を利用しない児童生徒(527人)に利用しない理由について尋ねたところ、全体では「外遊びなど他のことがしたいから」が42.3%で最も多く、次いで「読みたい本がないから」が28.3%、「読書が好きではないから」が22.2%で続いている。「図書館が教室から遠いから」「利用したい時に開いていないから」といった利用環境を理由とする割合は2.1%である。「その他」の内容としては、「自分の本を読む」「時間がない」「めんどくさい」等が多くあげられていた。

Ⅲ クロス集計及び総括

1. 子どもの状況

子どもの読書活動の実態とともに子どものメディアの利用や家庭での保護者の働きかけ、学校の取り組み等と子どもの1カ月に読む本の冊数等とのクロス集計により、子どもの読書活動へどのように影響するのか、かかわりがあるかについてみていく。

(1) 子どもの読書活動の現状

- 1カ月間に読む本の冊数は「1～2冊」(21.8%)、「3～5冊」(18.4%)、「1冊未満」(17.5%)の順で続いている。「読まない」は20.9%である。
- 小学3年生は「6冊以上」(35.4%)、「3～5冊」(31.1%)の順となっており、約3人に2人は月間に3冊以上読むと回答している。小学5年生もほぼ同様の傾向を示している。中学2年生では「1～2冊」(31.3%)が、高校2年生では「読まない」(43.6%)が最も多く、学年が上がるほど月間に読む本の冊数が少なくなる傾向がみられる。
- 放課後の過ごし方として本を読む時間では、学年が上がるにつれて「しない」の割合が増加し、高校2年生では約7割を占めている。読書時間としては、「30分未満」がいずれの学年でも最も多い。平均時間は、小学生、中学生では20分～30分程度、高校生では9分となっている。
- 本を読む時間と1カ月に読む本の冊数をみると、読書時間が長くなるほど冊数も多くなっている。30分未満では、「1冊未満」「1～2冊」が合わせて5割を超えているのに対して、30分以上になると「3冊～5冊」「6冊以上」が多くなり、2時間以上では「6冊以上」が8割を超えている。日頃の読書している時間が読書量を決定している。
- 毎日読書を続けられる時間では、小学3年生では「～1時間」(23.0%)、小学5年生では「1時間以上」(29.5%)、中学2年生と高校2年生では「～30分」(22.5%、24.7%)が最も多く、高校生では「しない」も1割を超えている。中学生・高校生になると読書時間は短くなっている。
- 毎日読書を継続できる時間と1カ月に読む本の冊数でも、読書を継続できる時間が長くなるほど平均冊数が増え、全体の平均時間としては約30分である。また、読書の冊数も～1時間、1時間以上では「3～5冊」「6冊以上」が多くなっている。子どもが毎日読書できる時間を30分～1時間程度確保することが読書活動に有効と思われる。

表Ⅲ-1 1カ月に読む本の冊数(1日あたりの読書時間別、読書を継続できる時間別)

		(%)							
		標 本 数	読 ま な い	1 冊 未 満	1 ~ 2 冊	3 ~ 5 冊	6 冊 以 上	無 回 答	平均 冊 数
全 体		955 100.0	200 20.9	167 17.5	208 21.8	176 18.4	157 16.4	47 4.9	2.2
1 日 あ た り の 読 書 時 間 別	30分未満	280	3.2	20.7	30.7	24.6	16.4	4.3	2.6
	30分以上1時間未満	153	0.7	4.6	26.1	32.0	35.9	0.7	3.9
	1時間以上2時間未満	51	-	-	17.6	31.4	45.1	5.9	4.5
	2時間以上	23	4.3	-	8.7	-	82.6	4.3	5.3
	しない	429	43.1	23.3	15.6	8.9	2.6	6.5	0.9
	無回答	19	21.1	10.5	21.1	21.1	15.8	10.5	2.4
読 書 を 継 続 で き る 時 間 別	10分以内	117	35.0	23.9	17.9	10.3	7.7	5.1	1.3
	~20分	136	16.2	29.4	22.8	21.3	5.9	4.4	1.8
	~30分	211	20.9	17.5	27.5	19.0	11.8	3.3	2.0
	~1時間	199	15.6	16.6	23.1	25.6	16.1	3.0	2.5
	1時間以上	174	3.4	6.9	20.7	22.4	45.4	1.1	4.0
	しない	79	65.8	10.1	11.4	1.3	2.5	8.9	0.5
	無回答	39	10.3	23.1	17.9	10.3	5.1	33.3	1.7

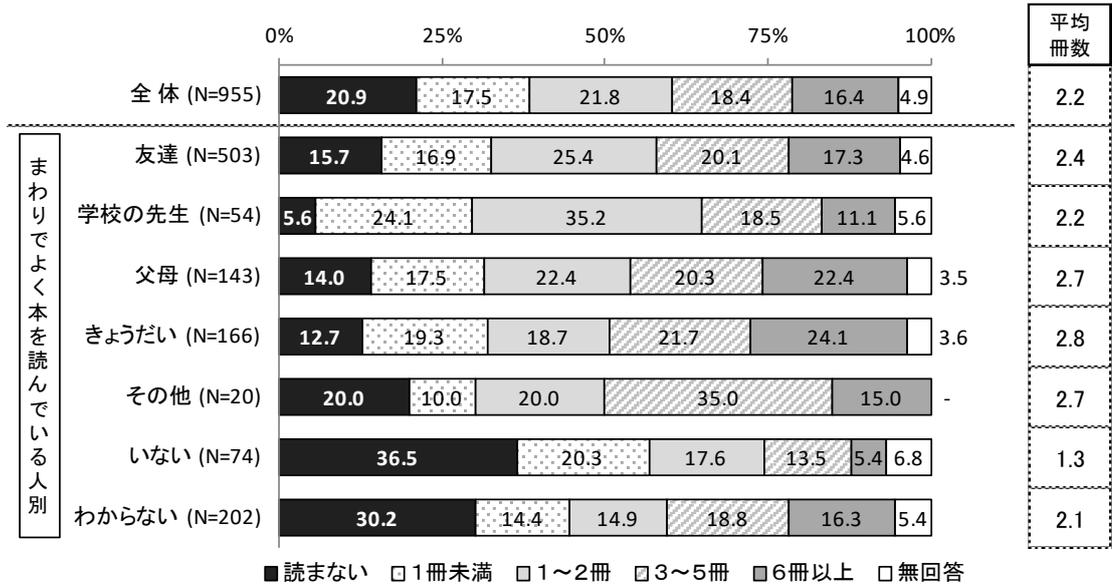
★平均値の算出方法

「読まない」：0冊、「1冊未満」：0.5冊、「1~2冊」：1.5冊、「3~5冊」：4冊、「6冊以上」：6冊と設定し、それぞれ平均値を算出した。なお、無回答は除外している。

(2) 家庭の状況と子どもの読書活動

- 家の中で最も本を多く置いている場所は「自分の部屋」(47.4%)が最も多く、「リビング」(18.0%)、「きょうだいの部屋」(12.8%)が続いている。「自分の部屋」はいずれの学年でも最も多く、中学2年生(56.3%)、高校2年生(53.4%)では5割を超えている。
- まわりでよく本を読んでいる人は「友達」(52.7%)が過半数を占めている。次いで「わからない」が21.2%で、「きょうだい」「父母」は1割台である。どの学年でも「友達」が最も多く、特に小学5年生(75.2%)、中学2年生(65.0%)で多くなっている。「きょうだい」「父母」は小学3年生で、「学校の先生」は中学2年生でやや多くなっている。
- まわりでよく本を読んでいる人別に1カ月に読む本の冊数をみると、よく本を読んでいる人がいない、あるいはわからない場合、「読まない」が3割を超えているのに対して、友達や学校の先生、父母やきょうだいでは「読まない」の割合は少なくなっている。また、友達や学校の先生がよく本を読んでいると回答した場合「1~2冊」が多く、父母やきょうだいでは「6冊以上」が多くなっている。

図Ⅲ－１ 1カ月に読む本の冊数(まわりでよく本を読んでいる人別)



- 本を紹介してくれる人では「友達」が54.2%で最も多く、「家族」が38.7%が続いている。学年別にみると、「友達」は学年が上がるにつれて割合が増加しているが、「家族」は学年が低くなるほど増加しており、高校2年生の20.6%に対して小学3年生では66.5%と小学生で家族が紹介してくれる割合が多い。
- 本を紹介してくれる人別に1カ月に読む本の冊数をみると、友達や本屋の人では「読まない」が2割を超えているのに対して家族や担任の先生、学校や地域の図書館の人が紹介してくれる場合、「読まない」の割合は少ない。具体的な冊数では、家族の場合「3～5冊」「6冊以上」が多くなっている。

表Ⅲ－２ 1カ月に読む本の冊数(本を紹介してくれる人別)

		標本数	読まない	1冊未満	1~2冊	3~5冊	6冊以上	無回答	平均冊数
全体		955	200	167	208	176	157	47	2.2
		100.0	20.9	17.5	21.8	18.4	16.4	4.9	
本を紹介する人別	家族	370	10.8	14.3	21.6	23.8	25.7	3.8	3.0
	担任の先生	34	8.8	23.5	35.3	11.8	11.8	8.8	2.0
	学校の図書館にいる先生	23	-	13.0	26.1	13.0	47.8	-	3.8
	地域の図書館の人	15	-	-	33.3	13.3	53.3	-	4.2
	本屋の人	93	22.6	18.3	20.4	16.1	18.3	4.3	2.2
	友達	518	23.6	18.7	20.5	18.3	13.1	5.8	2.0
	その他	125	21.6	20.0	22.4	20.0	13.6	2.4	2.1
	無回答	34	23.5	14.7	14.7	11.8	32.4	2.9	2.8

(3) 読書活動とメディアについて

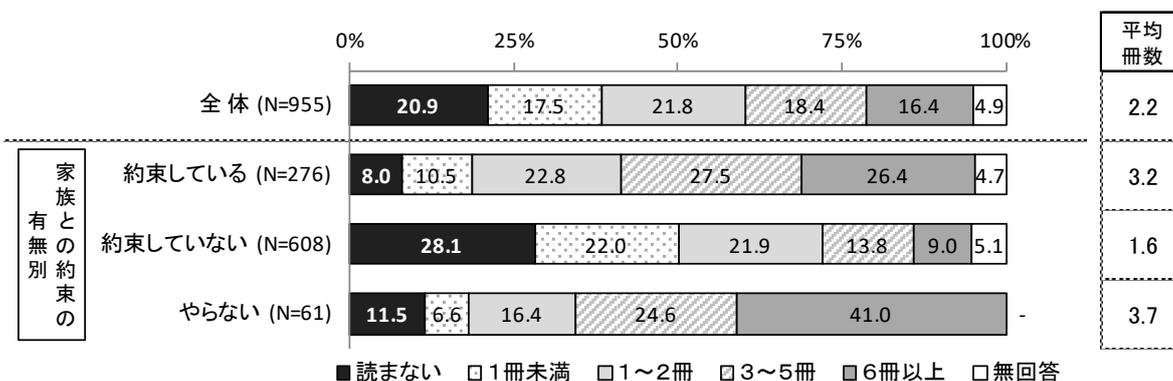
- パソコンやスマートフォンなどによる読書について「読まない」が59.7%で「たまに読む」(17.3%)と「よく読む」(9.3%)を合わせた『読む』は3割弱となっている。『読む』割合は学年が上がるにつれて増加しており、メディアの利用による読書は高校2年生で4割を超えている。
- 子どもがパソコン、携帯電話、スマートフォンを使用する時間による1カ月に読む本の冊数をみると、1時間以上になると、「読まない」が3割前後と多くなっている。パソコンなどを使用する時間が30分未満と少なくなると1カ月に読む冊数は増加し「3～5冊」「6冊以上」が多くなっている。

表Ⅲ-3 1カ月に読む本の冊数(1日あたりのパソコン、携帯電話等の使用時間別)

		(%)							
		標本数	読まない	1冊未満	1～2冊	3～5冊	6冊以上	無回答	平均冊数
全体		955	200	167	208	176	157	47	2.2
		100.0	20.9	17.5	21.8	18.4	16.4	4.9	
帯パ 用電ソ 時話コ 間等た 別のり 使携の	30分未満	150	10.7	8.0	21.3	32.0	22.7	5.3	3.2
	30分以上1時間未満	144	15.3	22.2	28.5	18.8	12.5	2.8	2.1
	1時間以上2時間未満	210	27.6	26.2	21.0	14.3	7.6	3.3	1.5
	2時間以上	253	34.0	20.2	20.2	7.1	9.5	9.1	1.4
	しない	183	8.2	7.7	20.2	27.9	34.4	1.6	3.6
無回答	15	20.0	20.0	20.0	13.3	13.3	13.3	2.0	

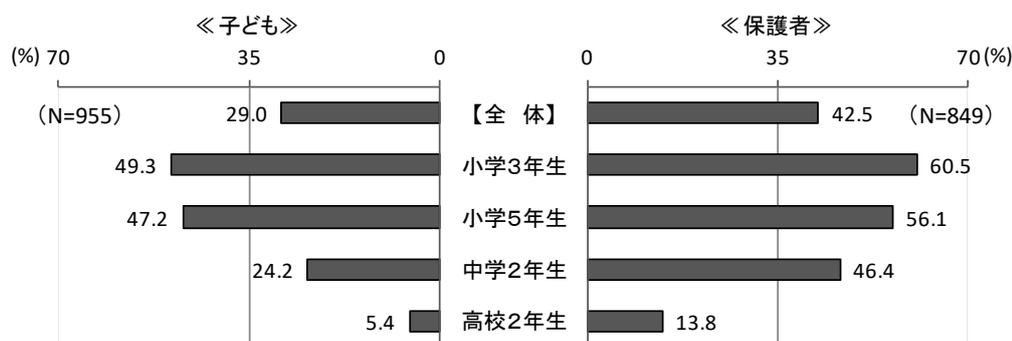
- インターネットやゲームをする時間についての約束では「約束していない」が63.7%で最も多く、「1時間まで」(10.6%)、「30分まで」(9.0%)が続いている。
- 「約束していない」は学年が上がるにつれて増加し、高校生では93.9%とほとんどが約束していない。小学3年生、5年生ともに何らかの約束をしている割合が5割弱となっており、小学生までは保護者の監督のもと使用している状況がみとれる。
- インターネットやゲームの時間について家族との約束の有無と1カ月に読む本の冊数では、約束していない場合「読まない」の割合が多く、約束している場合とは約2割の差がみられる。具体的な冊数も約束している場合、「3～5冊」「6冊以上」でしていない場合より多く、そもそもインターネットやゲームをしない場合、「6冊以上」が4割と多くなっている。

図Ⅲ-2 1カ月に読む本の冊数(インターネットやゲームの時間について家族との約束の有無別)



- インターネットやゲームについて家族と約束している割合を子どもと保護者と比較してみると、保護者は42.5%が「約束している」と回答しているのに対して、子どもは29.0%と13.5ポイント少ない。
- いずれの学年も保護者の方が「約束している」とする割合が多く、中学2年生では親子の割合の差は20ポイントを超えている。保護者が思っているほど子どもは「約束している」と認識しておらず、親子の認識にはずれがみられる。

図Ⅲ-3 インターネットやゲームの時間について家族と約束している割合



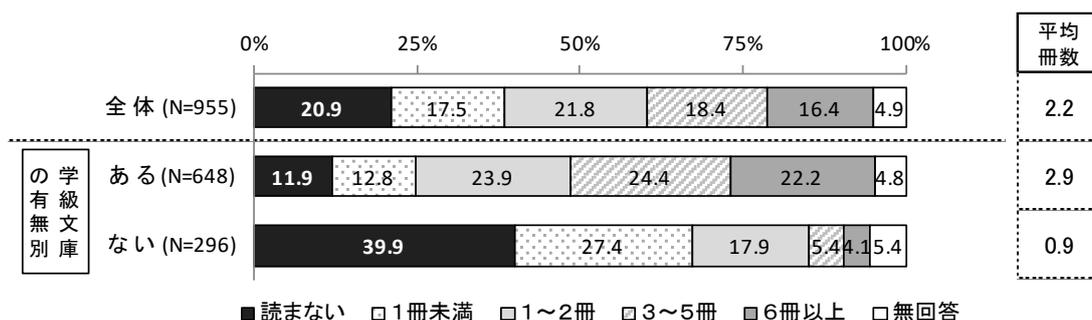
※約束している割合

子どもは、「30分まで」「1時間まで」「1時間30分まで」「2時間まで」「2時間以上」の合計。
保護者は、「30分まで」「1時間まで」「1時間30分まで」「2時間まで」「2時間以上」「その他」の合計。

(4) 子どもの読書活動と学校の取り組み

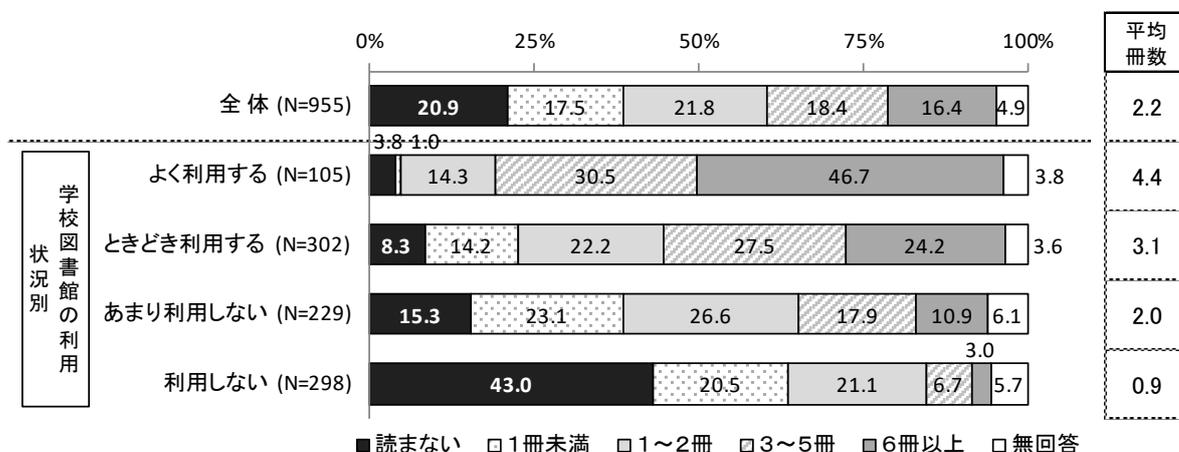
- 読書の時間は「ある」が57.6%で、「ない」が41.7%となっている。小学3年生では約9割が「ある」と回答しているが、中学生では58.3%、高校生では21.6%と少なくなっている。
- 学級文庫の有無では67.9%が「ある」と回答しており、3分の2は学級文庫の存在を認識している。「ない」は31.0%である。中学生までは「ある」が9割を超えて多く、小学5年生では97.1%を占めており、ほとんどのクラスに学級文庫がある状況となっている。高校2年生になると反対に「ない」が約9割となっている。
- 学級文庫の本を読むかでは「よく読む」「たまに読む」を合わせた『読む』が47.8%、「あまり読まない」「読まない」を合わせた『読まない』が51.7%で、読まない児童・生徒が3.9ポイント多い。小学生では『読む』が7割近くを占めているのに対して、中学生以上になると読まない割合が多くなり、中学2年生では『読まない』は80.4%、高校2年生では96.4%に達している。
- 学級文庫の有無別に1カ月に読む本の冊数をみると、学級文庫があるかどうかでは明らかに子どもの読書冊数に差があり、ない場合は「読まない」が39.9%となっているのに対して、ある場合は11.9%と少ない。具体的な冊数も、ある場合は「1～2冊」「3～5冊」「6冊以上」で、ない場合を大きく上回っている。学校に読みたいときにすぐ利用できる学級文庫があることは、子どもの読書活動を促す環境としては有効だろう。

図Ⅲ－4 1カ月に読む本の冊数(学級文庫の有無別)



- 学校の図書館の利用については「よく利用する」と「ときどき利用する」を合わせた『利用する』が42.6%、「あまり利用しない」と「利用しない」を合わせた『利用しない』が55.2%で、利用していない方がやや多い。小学生では『利用する』の方が『利用しない』に比べて多く、小学3年生では8割近くを占めている。中学2年生、高校2年生になると『利用しない』が7割、8割と多くなっており、図書館の利用は小学生で多い。
- 学校図書館利用と1カ月に読む本の冊数でみると、やはり図書館を利用している子どもで読書冊数は多くなっている。利用しない理由として、図書館が遠いことや利用したい時に開いていないことより読みたい本がないことの方を多くあげていたことから、図書館の蔵書についての検討も望まれよう。

図Ⅲ－5 1カ月に読む本の冊数(学校図書館の利用状況別)



- 学校の図書館を利用しない児童・生徒(527人)の利用しない理由としては、「外遊びなど他のことがしたいから」が42.3%で最も多く、次いで「読みたい本がないから」が28.3%、「読書が好きではないから」が22.2%が続いている。「図書館が教室から遠いから」「利用したい時に開いていないから」といった利用環境を理由とする割合は少ない。
- 学校図書館を利用しない理由別に子どもが1カ月に読む本の冊数をみると、読書が好きではないからを理由としている場合は「読まない」の割合が55.6%と他の理由に比べて多くなっている。また、読みたい本がない、図書館が遠いなどのいずれの理由の場合も3冊以上の割合は少ない。

表Ⅲ－4 1カ月に読む本の冊数(学校図書館を利用しない理由別)

(%)

		標 本 数	読 ま な い	1 冊 未 満	1 ～ 2 冊	3 ～ 5 冊	6 冊 以 上	無 回 答	平均 冊 数
全 体		955 100.0	200 20.9	167 17.5	208 21.8	176 18.4	157 16.4	47 4.9	2.2
用学 し校 な図 い書 理館 由を 別利	読みたい本がないから	149	26.8	22.1	20.8	12.8	8.7	8.7	1.6
	読書が好きではないから	117	55.6	19.7	11.1	4.3	1.7	7.7	0.6
	図書館が教室から遠いから	54	29.6	31.5	18.5	9.3	3.7	7.4	1.1
	利用したい時に開いていないから	11	36.4	18.2	18.2	-	18.2	9.1	1.6
	外遊びなど他のことがしたいから	223	29.1	20.2	26.9	14.3	6.3	3.1	1.5
その他	66	16.7	25.8	25.8	12.1	10.6	9.1	1.8	
無回答	23	34.8	13.0	26.1	8.7	8.7	8.7	1.5	

2 保護者の状況

家庭での保護者の読書活動の実態とともに保護者の子どもへの働きかけや読み聞かせなどとそれに対する子どもの認識など子どもの読書活動への関わりについてみていく。

(1) 保護者の読書活動の現状

- 1カ月間に読む本の冊数では「1冊未満」が36.4%で最も多く、次いで「1～2冊」が25.3%で続いている。「読まない」は29.4%となっている。
- 子どもの学年別では、「読まない」が小3保護者の21.5%から高2保護者では39.6%と学年が上がるにつれて増加している。いずれの学年の保護者も「1冊未満」「1～2冊」の割合が多く、「3～5冊」「6冊以上」は1割以下と少ない。学年が上がるほど1カ月間に読む本の冊数が少なくなる傾向がみられる。
- 平日に余暇時間がとれる保護者(453人)の活動している時間で「しない」と「無回答」を全体から除いた『する』割合をみると、「パソコン、携帯電話、スマートフォンを使用する」(91.4%)、「テレビやDVDを見る」(89.6%)の順となっている。
- 平均時間をみると、「テレビやDVDを見る」は1時間17分、「パソコン、携帯電話、スマートフォンを使用する」は1時間2分と1時間を超えているが、「本を読む」は19分、「マンガや娯楽雑誌を読む」は15分と短い。
- 本を読む時間について、小5保護者で「しない」が19.4%と、他の学年に比べて少なく、高2保護者では39.0%となっている。本を読む時間は「30分未満」がいずれの学年でも最も多くなっているが、小5保護者から学年が上がるにつれて減少し、高2保護者では26.8%となっている。

(2) 保護者の子どもへの働きかけと子どもの認識

- 子どもに本を紹介してくれる人としては「友達」が54.2%、「家族」が38.7%と続いている。「家族」は、高校2年生の20.6%に対して小学3年生は66.5%と、小学生では家族が紹介してくれるとする回答が多い。
- 保護者の子どもへのおすすめの本の紹介では「全くしていない」が38.5%で最も

多く、「あまりしていない」と合わせた『していない』は67.8%となっている。「よくしている」と「たまにしている」を合わせた『している』は31.4%である。小学生の保護者は『している』が約4割で、小学生までは保護者が子どもの読書に関与している場合が多いようである。

- 子どもの結果も保護者の結果でも、小学生では保護者の読書活動への関与が大きいと推測される結果となっている。

表Ⅲ-5 本を紹介してくれる人【子ども】

		標本数	【子ども】本を紹介してくれる人							無回答
			家族	担任の先生	に学校の先生 の図書館	の地域の 図書館	本屋の 人	友達	その他	
全体		955 100.0	370 38.7	34 3.6	23 2.4	15 1.6	93 9.7	518 54.2	125 13.1	34 3.6
学年別	小学3年生	209	66.5	1.9	4.3	2.9	6.7	34.0	8.6	5.3
	小学5年生	210	45.7	8.1	3.8	3.8	10.5	51.0	13.8	2.4
	中学2年生	240	30.8	4.2	0.8	0.4	11.3	58.8	14.6	4.6
	高校2年生	296	20.6	1.0	1.4	-	10.1	67.2	14.5	2.4

表Ⅲ-6 子どもへすすめる本の紹介【保護者】

		標本数	【保護者】子どもへすすめる本の紹介						
			よくしている	したまに いる	いあ なま いり して	い全 なく いて	無 回 答	『 して いる 』	『 いて ない 』
全体		849 100.0	36 4.2	231 27.2	249 29.3	327 38.5	6 0.7	267 31.4	576 67.8
子ども の 学年別	小学3年生	200	6.5	31.5	35.0	25.5	1.5	38.0	60.5
	小学5年生	189	6.9	33.9	30.7	28.0	0.5	40.8	58.7
	中学2年生	220	2.7	27.3	27.7	41.8	0.5	30.0	69.5
	高校2年生	240	1.7	18.3	25.0	54.6	0.4	20.0	79.6

(3) 読み聞かせが読書活動へ及ぼす影響

- 子どもの場合**、読み聞かせをよくしてもらったと回答している場合、1カ月に読む本の冊数は「6冊以上」が24.7%となっている。一方、してもらっていない場合「読まない」が27.9%とやや多くなっている。読み聞かせの経験がない子どもは読書冊数も少なくなる傾向がみられる。
- 保護者の場合**、子どもの頃の読み聞かせの経験を「覚えていない」が34.5%で最も多く、『してもらった』は35.8%、『してもらっていない』は29.4%で、どの学年の保護者も「覚えていない」が最も多く、『してもらった』は小3保護者では42.5%、高2保護者では27.5%と、学年が上がるにつれて減少している。
- 保護者の子どもの頃の読み聞かせの経験と1カ月に読む本の冊数**をみると、読み聞かせをしてもらっていないあるいは覚えていない保護者では「読まない」とする回答が多くなっているが、読み聞かせの頻度が多くなるほど読書冊数が顕著に増えるという傾向はみられない。概ね「1冊未満」と「1～2冊」で過半数を占めている結果となっている。

表Ⅲ-7 1カ月に読む本の冊数(読み聞かせの経験別)【子ども、保護者】

		【子ども】1カ月に読む本の冊数							
【子ども】		標本数	読まない	1冊未満	1〜2冊	3〜5冊	6冊以上	無回答	平均冊数
全体		955 100.0	200 20.9	167 17.5	208 21.8	176 18.4	157 16.4	47 4.9	2.2
（親や家族から） 読み聞かせの経験別	よくしてもらった	279	16.5	15.4	19.4	20.1	24.7	3.9	2.8
	ときどきしてもらった	286	20.6	17.1	25.2	19.6	11.9	5.6	2.1
	あまりしてもらっていない	180	20.6	22.2	20.6	20.0	11.7	5.0	2.0
	してもらっていない	201	27.9	16.9	21.4	13.4	14.9	5.5	1.9
	無回答	9	22.2	11.1	22.2	11.1	33.3	-	2.8

		【保護者】1カ月に読む本の冊数							
【保護者】		標本数	読まない	1冊未満	1〜2冊	3〜5冊	6冊以上	無回答	平均冊数
全体		849 100.0	250 29.4	309 36.4	215 25.3	44 5.2	23 2.7	8 0.9	0.9
読み聞かせの経験別	よくしてもらった	137	26.3	27.0	34.3	5.1	6.6	0.7	1.3
	たまにってもらった	167	22.2	37.7	31.1	6.6	0.6	1.8	1.0
	あまりしてもらっていない	83	22.9	34.9	30.1	8.4	1.2	2.4	1.1
	してもらっていない	166	33.7	36.7	22.3	4.2	2.4	0.6	0.8
	覚えていない	293	34.5	40.3	18.4	3.8	2.7	0.3	0.8
	無回答	3	33.3	33.3	-	33.3	-	-	1.5

(4) 保護者からの子どもへの働きかけと子どもの読書活動

今回の調査では、同じ世帯の子どもと保護者に同時にアンケート調査を実施している。そこで同じ世帯で保護者と子どもの両方から回答があった世帯のみを抽出し、保護者の働きかけに対する子どもの読書冊数などいくつかの項目で集計を行い結果について参考までにまとめた。

○子どもと保護者の読書の実態について、それぞれの1カ月に読む冊数でみると、保護者の読む本の冊数は、そもそも「1冊未満」や「1〜2冊」に集中していたが、保護者の読む本の冊数が多くなると子どもの読む本の冊数も多くなる傾向がみられる。保護者が「読まない」と回答していると子どもも「読まない」割合が多くなっている。

表Ⅲ-8 1カ月に読む本の冊数【子ども】(1カ月に読む本の冊数別【保護者】)

		【子ども】1カ月に読む本の冊数							
		標本数	読まない	1冊未満	1〜2冊	3〜5冊	6冊以上	無回答	平均冊数
全体		821 100.0	156 19.0	146 17.8	184 22.4	158 19.2	138 16.8	39 4.8	2.3
1カ月に読む本の冊数別	【保護者】 読まない	239	28.0	18.0	21.3	16.7	11.7	4.2	1.9
	1冊未満	298	18.8	19.1	23.2	16.4	16.1	6.4	2.2
	1〜2冊	213	13.1	16.0	25.8	21.1	19.7	4.2	2.6
	3〜5冊	41	7.3	14.6	17.1	36.6	22.0	2.4	3.2
	6冊以上	22	4.5	18.2	4.5	22.7	50.0	-	4.1
	無回答	8	12.5	25.0	12.5	50.0	-	-	2.3

○保護者が子どもに本を紹介している程度と子どもの読む本の冊数については、保護者がおすすめの本を紹介していない場合、子どもの「読まない」割合が多くなっている。一方、おすすめの本を紹介していると、「3～5冊」「6冊以上」の割合が本を紹介していない場合より多く、保護者が本を紹介していると子どもの読書冊数が多くなる傾向がみられる。保護者が子どもへおすすめ本の紹介することは子どもの読書活動に効果があるといえよう。

表Ⅲ－9 1か月に読む本の冊数【子ども】(子どもへすすめる本の紹介別【保護者】)

		標本数	【子ども】1か月に読む本の冊数					平均冊数	
			読まない	1冊未満	1～2冊	3～5冊	6冊以上		無回答
全体		821 100.0	156 19.0	146 17.8	184 22.4	158 19.2	138 16.8	39 4.8	2.3
子どもへ 本の紹介 【保護者】	よくしている	33	-	21.2	9.1	36.4	30.3	3.0	3.6
	たまにしている	226	14.2	15.9	21.7	21.2	23.9	3.1	2.8
	あまりしていない	244	15.2	18.4	24.6	19.7	17.6	4.5	2.4
	全くしていない	312	27.9	18.3	22.1	15.7	9.6	6.4	1.7
	無回答	6	-	16.7	50.0	16.7	16.7	-	2.5

○保護者の子どもへの読書を促す声掛けと子どもの読む本の冊数では、声掛けの頻度が多くなると「6冊以上」が多くなり、毎日声掛けをしている場合では子どもの「6冊以上」は約3割となっている。一方、約半年に1回や声掛けをしていない場合、子どもの「読まない」の割合が多くなる傾向がみられる。学年が上がるほど読む本の冊数が少なくなっていたこともあり、保護者の子どもへの読書を促す声掛けがすべての年齢の子どもに一樣に効果があるとはいえないが、家庭の取り組みとしては望まれよう。

表Ⅲ－10 1か月に読む本の冊数【子ども】(子どもへの読書を促す声掛けの頻度別【保護者】)

		標本数	【子ども】1か月に読む本の冊数					平均冊数	
			読まない	1冊未満	1～2冊	3～5冊	6冊以上		無回答
全体		821 100.0	156 19.0	146 17.8	184 22.4	158 19.2	138 16.8	39 4.8	2.3
子どもへの 声掛けの 頻度別 【保護者】	毎日	31	9.7	22.6	16.1	12.9	32.3	6.5	3.0
	2～3日に1回	37	10.8	8.1	27.0	27.0	24.3	2.7	3.1
	約1週間に1回	71	9.9	18.3	18.3	25.4	23.9	4.2	2.9
	約1か月に1回	88	15.9	11.4	22.7	22.7	23.9	3.4	2.8
	2～3か月に1回	67	9.0	22.4	25.4	22.4	17.9	3.0	2.5
	約半年に1回	43	20.9	37.2	18.6	11.6	9.3	2.3	1.5
	その他	11	18.2	9.1	18.2	9.1	45.5	-	3.4
していない	467	23.6	17.1	22.7	18.2	12.6	5.8	2.0	
	無回答	6	16.7	16.7	50.0	-	16.7	-	1.8

3 司書教諭

学校における子どもの読書活動推進の取り組みや図書館の現状などについてまとめた。なお、高校については4校でのみ調査を実施しているため、結果は参考とする。

(1) 学校の取り組みについて

- 「学校図書館全体計画」を全体の62.0%が策定している。小学校で58.7%、中学校で66.7%、高等学校では100%となっている。
- 授業への図書館活用の程度は「月に1回」が41.3%で最も多く、次いで「1学期に1回」(23.9%)と「週に1回」(20.2%)が2割台で続いている。「していない」は1.4%と少なく、ほとんどの学校で程度の差はあれ図書館の活用がなされている。
- 小学校では「月に1回」が44.1%、次いで「週に1回」が25.9%となっているが、中学校では「月に1回」と「1学期に1回」が同率の36.4%と、小学校の方が活用頻度は高い。
- 全校一斉の読書活動の実施状況では「始業前」が62.4%で最も多く、「時期を決めて実施している」が17.4%で続いている。小学校、中学校ともに「始業前」が最も多く、小学校では「時期を決めて実施している」(23.8%)が続いているが、中学校では「実施していない」(21.2%)が続いている。

表Ⅲ-11 全校一斉読書活動の実施状況(読み上げ冊数の群分け別)

		(%)						
		標本数	始業前	授業の時間	昼休み・放課後	実施時期を決めている	実施していない	『実施している』
全体		213 100.0	133 62.4	6 2.8	4 1.9	37 17.4	33 15.5	180 84.5
読み上げ冊数群分け	高	55	74.5	-	5.5	9.1	10.9	89.1
	中	95	66.3	3.2	1.1	16.8	12.6	87.4
	低	59	47.5	5.1	-	27.1	20.3	79.7
	無回答	4	25.0	-	-	-	75.0	25.0

- 全校一斉の読書活動以外の取り組みでは「図書の読み聞かせの実施」と「必読書・推薦コーナーの設置」の取り組みが6割を超えて多い。小学校では、「図書の読み聞かせの実施」が9割を超えているのに対して、中学校では「必読書・推薦コーナーの設置」の取り組みが約7割で最も多くなっている。
- 読書活動ボランティアの活用は65.7%の学校が活用しているが、小学校で活用している学校が9割を超えているのに対して、中学校では13.6%と大幅に減少している。読書活動ボランティアの活用は小学校が中心となっている。
- 具体的な活動内容としては、小学校では「読み聞かせ、ブックトーク等読書活動の支援」が94.7%、中学校では77.8%となっている。次いで小学校、中学校ともに「図書館の書架見出し、飾り付け、図書の修繕等施設の整備に係る支援」が4割を超えている。小学校ではこの2つの活動に集中している。

表Ⅲ-12 図書ボランティアの活動内容(読み上げ冊数の群分け別)

			支の配 援図架 書や貸 館サ・ ー返 ビ却 スに 係業 務等	設り図 の付書 整け館 備、の に図書 係架見 るの修 支援繕 等施 飾	ク読 等読 み聞 かせ 書活 動、 ブツ ク ト	図 書 館 の 開 館 の 支 援	そ の 他	無 回 答
全 体		140 100.0	7 5.0	59 42.1	131 93.6	5 3.6	5 3.6	- -
る冊読 群数み 分に上 げよげ	高	38	-	50.0	97.4	2.6	-	-
	中	57	5.3	43.9	89.5	5.3	7.0	-
	低	45	8.9	33.3	95.6	2.2	2.2	-
	無回答	0	-	-	-	-	-	-

(2) 学校図書館の状況について

- 図書館の開館状況**では、「昼休み」が93.9%で最も多い。次いで「中休み」(53.5%)と「授業中」(39.9%)が続いている。小・中・高校のいずれも「昼休み」が9割を超えている。次いで、小学校では「中休み」「授業中」「始業前」が多くなっている。中学校では「昼休み」に集中している。
- 授業時間以外の図書館の1日平均開館時間**では「約1時間程度」が53.5%で最も多く、次いで「30分以下」が26.3%で、両者を合わせて約8割が『1時間程度』までとなっている。『1時間程度』までは小学校で74.1%、中学校で95.5%となっている。
- 図書館で本の貸し出しをしている**のは「昼休み」「長期休暇中」が同率の98.6%で、これに「授業中」と「中休み」が続いている。小学校では「長期休暇中」が100%、「昼休み」98.6%、「授業中」90.9%、「中休み」79.0%となっている。中学校では「昼休み」と「長期休暇中」は9割を超えて多い。
- 学期中の1回あたり貸出冊数**は「2冊」が52.6%で最も多く、次いで「1冊」(26.8%)、「3冊」(17.4%)の順となっている。
- 長期休暇中の本の貸出冊数**は「2冊」(35.7%)、「3冊」(31.9%)、「5冊以上」(27.7%)の順となっている。
- 学期中の本の貸出期間**については「1週間」が83.1%、「2週間」が11.3%で、これら2項目で94.4%を占めている。

IV 平成 29 年度子ども読書活動実態調査の結果分析にかかる考察

福岡女子短期大学文化コミュニケーション学科
元教授 白根一夫

1. はじめに

読書は、子どもの内に多くの素晴らしい宝物を育んでくれる。「子どもの読書活動の推進に関する法律」では『子どもの読書活動は、子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないもの』としている（同法2条）。簡潔にしかも的確に読書の意義を表現した文言である。科学技術の急激な発展・発達、気候変動、不透明な世界情勢、少子・高齢化、格差社会など現代は多くの問題を抱え、予測不能な時代を迎えた観がある。子どもたちはこの不確実性の時代を切り拓いていかねばならない。そのためには、読書によって培われる柔軟で多面的客観的な思考力が不可欠であろう。にもかかわらず、子どもたちを読書から遠ざける要因があふれている。家庭・地域、幼稚園・保育園、学校、図書館などが連携しながら、子どもたちが自主的に読書できるよう、丁寧に働きかけていく必要を感じる。

2. 「子どもの読書活動に関する実態調査」の結果について

以下、今回の「実態調査」の結果から、見えてきたことを述べる。

(1) 子どもの読書活動の現状

福岡市の子どもの読書活動の現状では、調査対象全体で一か月に読む冊数が1冊から5冊までが40.2%ある一方、「読まない」が残念ながら20.9%もある。調査の方法、時期も違うため、単純比較はできないが、第63回学校読書調査（全国学校図書館協議会・毎日新聞社共催2017年5月調査）の結果と比較すると、福岡市の「読まない」の比率が小学生でやや高いことが気になる。学校読書調査では、「不読者」（0冊回答者）が小学校で5.6%、中学校15.0%、高校50.4%。福岡市では小学3年8.1%、小学5年10.5%、中学2年13.3%、高校2年43.6%が「読まない」と回答し、中・高生では全国調査よりも不読者（0冊回答者）の比率は低い。

詳細を見ると、小学3年生で66.5%、5年生では54.2%が月間3冊以上読むと回答しているが、中学2年生では「1～2冊」（31.3%）、高校2年生では「読まない」（43.6%）が最も多いという結果である。学年が上がるにつれて勉学の内容・量が増えること、放課後のクラブ活動への参加が影響していると考えられる。（p5 図Ⅱ-1-1）

放課後の過ごし方においても、読書時間は学年が上がるにつれて少なくなり「読まない」と答えた高校生が約7割。平均では小学生、中学生では20～30分程度、高校生に至っては9分程度となっている。予想外だったのはテレビ視聴時間の長さだった。最近の子どもはあまりテレビを見ないのではないかと思っていたが、小学3年生から高校2年生まで平均1時間以上見ていることが分かった。またテレビ以外では、小学生は「友達と遊ぶ」「習い事に行く」も1時間以上占めている。「友達と遊ぶ」は中学2年生

(47分)、高校2年生では(36分)、「習い事に行く」も減少。かたや「パソコン、携帯電話、スマートフォンを使用する」は学年が上がるにつれて平均時間が長くなり、小学生に比べ高校生の使用時間は1時間以上増大している。(p12～p20 図Ⅱ-1-3～図Ⅱ-1-15)

小学生が「友達と遊ぶ」ことに時間をかけているのは喜ばしいが、どのような遊びなのか、内容が気になるところである。中・高生時代は、多感な時期であり人格の形成期でもあるので、読書を通して得るものが最も多いと思われるのだが、残念な調査結果であった。中・高生を読書に導く積極的な手立てや工夫が求められる。

(2) 周囲の読書状況による影響

身近な家族や友人が読書をしているかどうか、子どもの読書量に影響している。本を読む友達がいる子の平均読書冊数は2.4冊、父母や兄弟姉妹が読んでいる子は2.7冊～2.8冊、身近に読書する人がいない子の平均冊数は1.3冊であり、家庭での読書環境や友人の重要さが示されている。家族やボランティアによる読み聞かせ体験も子どもの読書量を大きく左右している。(p81 図Ⅲ-1, p33 表Ⅱ-1-17)

家族から本を紹介してもらう子の平均読書冊数は3.0冊、友達が紹介してくれる子の平均冊数は2.0冊であった。「学校の図書館にいる先生」「地域の図書館の人」から紹介してもらった子の読む平均冊数が、それぞれ3.8冊、4.2冊で、担任の先生では2.0冊であった。子どもたちは大人からの紹介よりも友達の口コミで本を選ぶということをよく耳にするが、調査結果では、家族や図書館職員等からの働きかけも効果的であることがわかった。(p81 表Ⅲ-2)

(3) メディアの影響

図書の電子化が進み、パソコンやスマートフォンを通して手軽に読める時代になったが、子どもたちはどう利用しているのだろうか。「パソコンやスマートフォンなどによる読書」については、全体平均では、読まないが6割、たまに読む・よく読むが3割弱である。これも読む割合は学年が上がるにつれて増加する傾向である。高校2年生にいたっては「メディアの利用による読書」が4割を超えている。(p22 図Ⅱ-1-17)

パソコン、携帯電話、スマートフォンの利用時間と1か月に読む本の冊数の関係では以下の結果を得た。

上記の機器類を1時間以上利用すると「読まない」が3割前後と多くなり、30分未満だと読む冊数は増加する。1か月の平均冊数で見ると、まったく利用しない子は3.6冊、30分未満の子は3.2冊だが、2時間以上は1.4冊、1時間以上2時間未満は1.5冊で実に2倍以上の開きがあり、利用時間の多寡が読書に影響していることがわかる。

(p82 表Ⅲ-3)

インターネットやゲームをする時間についての約束の有無と1か月に読む冊数との関係では、特に約束していない子の場合、1か月の平均冊数は1.6冊だが、約束がある場合は3.2冊と2倍の開きがある。まったく約束しない子の場合は3.7冊である。(p82 図Ⅲ-2) インターネットやゲームの時間に関する制限の有無が読書活動に影響していることから、インターネットやゲームの利用がやはり読書の阻害要因の一つであることが判明した。

(4) 学校での取り組み

学校図書館法が求めており、学校図書館の存在意義でもある「授業への図書館活用」の程度については、「月1回」(41.3%)が最も多く、「1学期1回」(23.9%)と「週に1回」(20.2%)が続いている。「していない」と回答している学校は1.4%と少ない。しかし、小学校から中学校と学年が上がるにつれて活用頻度は下がっている。(p67 図Ⅱ-3-3)

全校一斉の読書活動については、全体では「始業前」(62.4%)、「時期を決めて実施している」(17.4%)と続いている。小・中学校では「始業前」が最も多く、次いで小学校「時期を決めて実施している」(23.8%)、中学校「実施していない」(21.2%)と続いている。中学においては、学習が優先されているか、または全教職員の理解を得るまでには至っていないということであろうか。(p68 図Ⅱ-3-4)

全校一斉の読書活動の実施状況を読み上げ冊数の群分け別でみると、始業前、授業の時間、昼休み・放課後に実施している学校の方が読み上げ冊数が高く、これらの取り組みが少なく実施していないと回答した学校の読み上げ冊数は低い(p89 表Ⅲ-11)。このことから、全校一斉の読書活動が、子どもの読書活動推進に役立っていることがわかる。

全校一斉の読書活動以外の取り組みでは「読み聞かせ」が小学校で9割を占め、中学校では「必読書・推薦コーナーの設置」が約7割を占めている。(p69 図Ⅱ-3-5)

読書ボランティアの活用は、全体では65.7%が実施している。小学校では9割を超えているのに対し、中学校では13.6%にとどまっている。(p70 図Ⅱ-3-6) ボランティア活動の内容は、「読み聞かせ、ブックトークなど」が主で、小学校で94.7%、中学校でも77.8%である。その他の活動では、「図書館の書架見出し、飾り付け、図書の修繕等施設の整備に係る支援」が4割を超えている。(p71 図Ⅱ-3-7)

ボランティアが「図書館の書架見出し、飾り付け、図書の修繕等施設の整備に係る支援」に関わっている学校ほど、生徒たちの読み上げ冊数が高いことがわかる。(p90 表Ⅲ-12)

学校図書館の開館状況は、小・中学校は昼休みが9割を超えている。(p73 図Ⅱ-3-9) 1日の平均開館時間(授業時間を除く)は、約8割が1時間程度までである。(p75 図Ⅱ-3-11) また、多くの小・中学校では学級文庫を設けているが、子どもの身近という意味で優れた取り組みであるし、調査結果からも読書に結び付いていることがわかる。(p37 表Ⅱ-1-19)

3. 課題と展望

今回の調査結果から、子どもが自分から自然に読書に手を伸ばすには、「子どもたちの身近に本があること」「様々な方法で本や読書の楽しさを伝えてくれる人がいること」が必要であることを再確認できた。福岡市子ども読書活動推進計画(第3次)の基本目標「つくろう ことば輝くまち つなげよう 子どもと本の世界」を実現するために必要な課題がいくつか明確になったと感じる。

①家庭での読書環境の重要性 — 共読・家読(うちどく)の取り組みの推進

読み聞かせを体験している子どもほど、読書に親しんでいることが明らかになった。また、保護者についても、子どもの頃読み聞かせをしてもらったことがある方がよく本を読む傾向が見られた。子どもが本好きになるには、家族に読んでもらうこと、家

の中で読書している風景が常にあることが重要であり、共読や家読の取り組みの推進が求められる。身近な大人に本を読んでもらうことは、同じ世界、同じ時間、同じ場所を共有することであり、子どもにとって、読み手の愛情を感知するかけがえのない機会となる。

大人が読んでやるだけでなく、子どもの読み聞かせに家族が聴き入る方法もあるし、各々好きな本を読むのもよい。各家庭の状況に合ったやりやすい方法でよいのではあるまいか。

ブックスタート事業[※]の取り組みで、子育てに読み聞かせを取り入れた家庭は少ないと思う。同様の取り組みを小学校入学時などにも広げることで、家庭での読書活動の継続、活性化につながるのではないだろうか。また、学校、PTA、地域等の協力を得て、家庭への啓発活動を展開することも必要であろう。

※ブックスタート事業…4か月児健診で絵本を配付し、「絵本を開くひとときの楽しさや大切さ」を伝える事業（平成16年8月開始）

②学校図書館の重要性 — 司書教諭の負担軽減措置と学校司書の配置

学校図書館は「学習センター」「情報センター」「読書センター」の3つの役割を持っている。小・中学校の6割が「学校図書館全体計画」を策定しているが、「授業への図書館活用」が月1回（41.3%）、1学期1回（23.9%）では、学校図書館が授業に活用されているとは言えないのではないか。調べ学習などのアクティブ・ラーニングの実施に際しても、学校図書館は大きな可能性を秘めている。その可能性を引き出すには、司書教諭の負担軽減措置が必要となろう。例えば、調べ学習の授業に司書教諭が加わりティームティーチングを導入することで、信頼できる情報源の紹介や、辞書・辞典の使い方など、調べ方を教えることができ、玉石混交の情報の中から正確で役に立つ情報を選び出す能力を養うことにつながる。残念ながら、現時点で軽減措置が取られている学校は全体の3.8%に止まっている。（p66 図Ⅱ-3-2）

また、学校図書館が前述の3つの役割を十分に果たすには、学校司書の存在も重要である。学校司書が常駐していれば、資料の選択、整理、貸出などの日常業務だけでなく、授業に必要な資料の準備、読み聞かせやブックトークなどの手法で授業を支援することも可能になる。

特に「読書センター」に関して、学校司書の果たす役割は大きい。学校図書館を利用する子と利用しない子の平均読書冊数では5倍近くの差があることが今回の調査で判明した。学校図書館にいつも人がいれば、より多くの子どもたちが図書館に足を運ぶであろう。学校司書がいて、昼休みや中休みに子どもとコミュニケーションをとりながら本の紹介や本選びのアドバイスをし、また、季節や行事に合わせたテーマ展示、子どもの興味を引くポップの作成などを行えば、館内も明るくなり、子どもの読書意欲をたかめることができる。中学校では放課後の利用も可能となり、子どもたちの読書活動の活性化や、居場所の提供にもつながると思われる。

一挙に全小・中学校に学校司書を配置することは困難であろうが、増員を図るとともに、実験的に数校に専任の学校司書を置き、司書教諭の負担軽減措置も実施した上で、学校図書館の効果を検証することはできないだろうか。

③メディアと読書とのかかわり — 家庭や学校に対する啓発

パソコンやスマートフォン、ゲームなどとの過度な接触は、本を読む、活字を追って考えるという子どもの読書生活を衰退させることはあっても増加・上昇させることはないことをアンケート結果は伝えている。一方で、視覚の問題やディスレクシア※などの理由によって、「本」での読書に障害がある子どもたちには、マルチメディアデイジー※などが重要な読書手段となりうることも忘れてはならない。「メディアの利用が子どもたちに及ぼす影響」および「子どもの発達段階に応じたメディア利用の望ましい在り方」についての検証が急務である。客観的な根拠に基づいた情報を家庭や学校に提供し、注意を促すことも必要であろう。

※**ディスレクシア**…学習障害のひとつのタイプとされ、文字の読み書きに限定した困難があり、そのことによって学業不振が現れたり、二次的な学校不適応などが生じる疾病

※**マルチメディアデイジー**…文字が読めなくても、パソコンやタブレット端末などで、読書を楽しむためのツール

④地域での取り組みと読書ボランティアの育成 — 連携と協同の推進

子どもの身近な読書スポットとして、公民館がある。スタンダード文庫を整備するなどの良い取り組みがなされているが、子どもたちに本を手渡す人の存在も重要である。地域における「読み聞かせ・ブックトーク・読書にかかわるイベント」の実施については、保護者および地域のボランティアの協力なくして成り立たない。

読書ボランティアを積極的に育成するとともに、すでに学校等で活動しているボランティアとも連携・協同することも必要であろう。

4. おわりに

今回の調査結果から、子どもの読書活動推進のためには、家庭・地域、幼稚園・保育園、学校など、子どもに関わるすべての場所の連携・協力が欠かせないことを再認識した。仮に、家庭が読書環境に恵まれていなくても、保育園・幼稚園、地域、学校で読み聞かせなどの読書支援があれば、子どもは読書の楽しさに触れる機会を得ることになる。

国立青少年教育振興機構の調査（2013年）※によれば、『読書好きの子どもは積極的』、『子どもの頃の読書活動が多い大人ほど、未来志向や社会性などの「意識・能力」が高い』傾向にあるという結果が出ている。読書好きの子どもを育てることは、より良い未来を創ることにもつながっている。

最後に、『橋をかける—子供時代の読書の思い出』（すえもりブックス）から、美智子皇后の言葉を引用させていただき、この稿を閉じる。

『・・・本が子供の大切な友となり、助けとなることを信じ、子供達と本とを結ぶIBBY※の大切な仕事をお続け下さい。子供達が、自分の中に、しっかりとした根をもつために。子供達が、喜びと想像の強い翼をもつために。子供達が、痛みを伴う愛を知るために。そして、子供達が人生の複雑さに耐え、それぞれに与えられた人生を受け入れて生き、やがて一人一人、私共全てのふるさとであるこの地球で、平和の道具となっていくために』

IBBYに限らず、『子供達と本とを結ぶ大切な仕事』に関わる全ての人々に向けてのお言葉だと受け止めている。

※国立青少年教育振興機構の調査(2013年)…子どもの読書活動の実態とその影響・効果に関する調査研究

※IBBY…国際児童図書評議会